

荒神山スポーツ公園基本構想
(改訂版)

辰 野 町

第1章 基本構想の策定にあたって

1. 構想の背景

荒神山公園は開設から40年余、スポーツ・文化の拠点、心安らぐ憩いの場所、また美しい四季の風景を楽しむ場所として町民に愛されてきました。これまで住民を対象に行ったアンケートや懇談会でも当公園の大切さが確認されています。

しかしながら施設の老朽、利用者ニーズの多様化など、将来にわたる維持管理について課題を抱えている状況です。そこで、懇談会やアンケートの結果から町民の生の声を踏まえながら、荒神山の今後の運営方法や活動方法等に係る基本構想を策定しました。

2. 構想の基本方針

現在の荒神山公園の魅力をさらに充実させ、子どもやお年寄り、障害者も含めた多くの人たちにやさしく、末永く愛される公園を目指します。

また、近年の多様化する利用者のニーズに応えるため、施設の立地、特色をさらに生かし、心身の健康づくりと福祉、災害時への備えとなる防災、自然資源を活用した学びや観光、人々のふれあいの場などより多面的な機能を持たせ、それらの複合的な活用で相乗効果を生み出す公園づくりに取り組めます。

3. 改訂内容

構想の1つ「安心して安全に利用できる公園」は、荒神山公園を利用するすべての人が安心して安全に利用できる公園づくりを目指し、日常の維持管理・災害時にも防災の拠点として町民に安心感を与えられる公園を構想としておりました。基本計画を策定するにあたり全ての構想において、共通項目となるため、分かりやすく3つの構想としてまとめました。

第2章 基本構想

■現在も、これからもずっと 町民に愛され、町民の健康と暮らしを支える公園

長期的な視野に立った維持管理、防災機能の保持、健康増進の支援、ユニバーサルデザインの採用等により、荒神山を利用するすべての人が安心して安全に利用でき、未永く愛される公園を目指します。

■現在の良さや資源を最大限に活用した公園

荒神山公園には、陸上競技場や体育館など多様なスポーツ施設と共に、辰野美術館や世界昆虫館などの文化の拠点となる施設、パークホテル、湯にいくセンターなど温泉を活用した施設、芝生広場やたつの海周辺の観光施設など、魅力的な資源が集積しています。それぞれの魅力を最大限に引き出し、それらの施設、ソフトの魅力をつなげることによって相乗的な効果を生み出す公園を目指します。

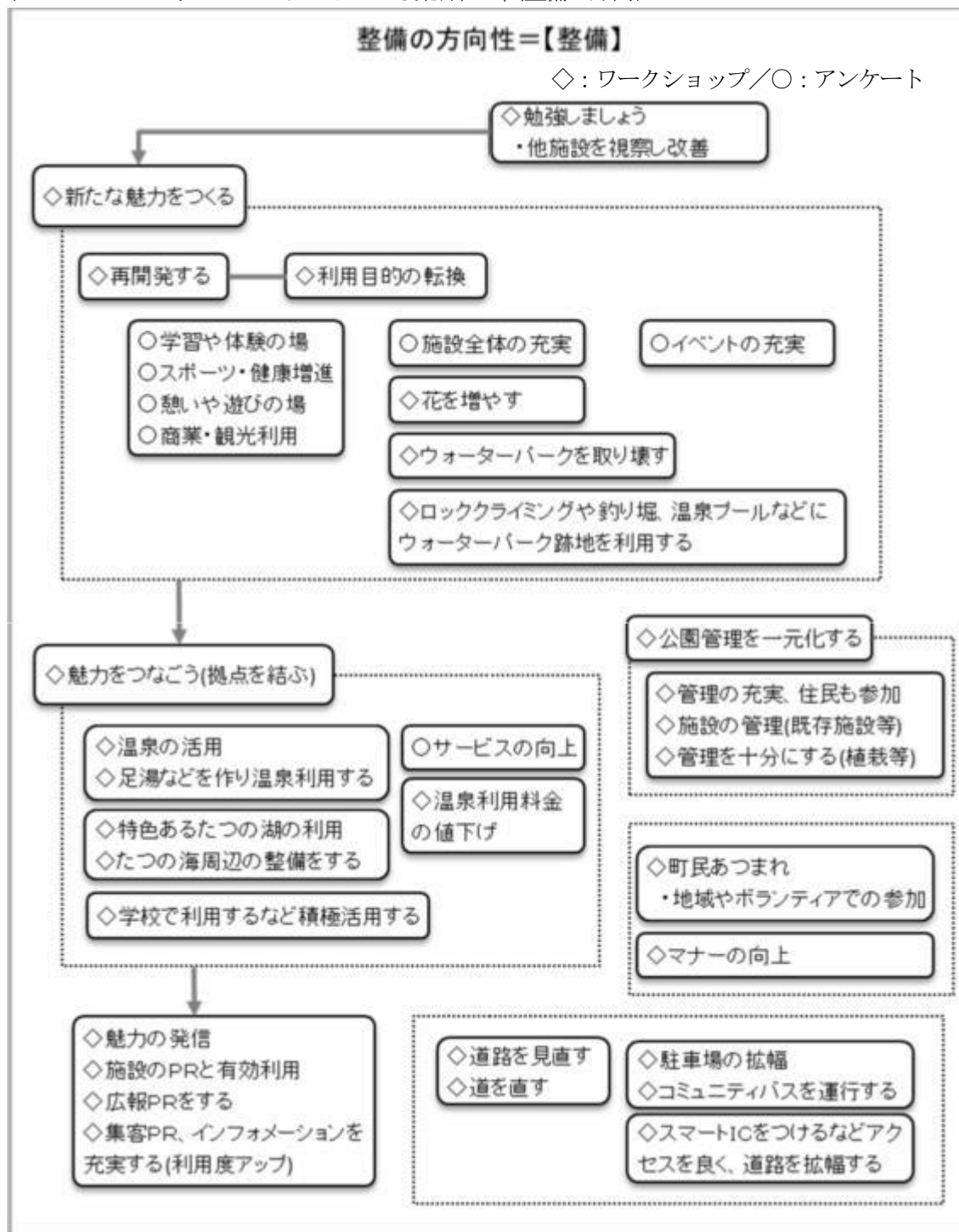
■自然と共生し、環境に配慮した公園

荒神山公園の大きな特色のひとつである多様な生態系は、国内でも希少な動植物の生息も確認されており、市街地にあつて里山本来の自然が残存し、住民生活と共生する、環境保全の象徴的なエリアともいえます。四季折々の表情で町民、観光客を迎えてくれるこの自然豊かな公園の風情、資源を体験や学習、様々な活動を通じて利用者が感じることが出来るよう、植栽や整備にあたっては生態系への影響を考慮し、環境の調和のとれた公園とします。

4-3 整備の方向性

基本構想と同様に、懇談会(ワークショップ)とアンケートから導き出された整備の方向性に関するキーワードを図 4-2 にまとめた。

図 4-2 ワークショップとアンケートによる荒神山公園整備の方向性



第3章 整備の方向性

■現在も、これからもずっと 町民に愛される公園

- ◇未利用施設や老朽化施設の再開発など利用目的の転換も考慮し、多様な利用方法を考える。
- ◇維持管理や植栽の手入れを徹底し、公園の質の維持に努める。
- ◇利用者マナー向上のための啓発活動を行う。
- ◇避難施設の耐震性保持、資機材の備蓄等により防災拠点としての機能を整える。
- ◇町民の健康増進、介護予防、子育て支援に資する環境の整備を図る。

■現在の良さや資源を最大限に活用した公園

- ◇施設全体やイベントなどのソフト充実で、新たな魅力をつくる。
- ◇施設集積の相乗効果を最大限発揮するよう、園内の動線を整備する。
- ◇温泉を活用した健康増進施設など、既存資源の組合せを工夫して、特色ある整備を行う。
- ◇学校や各種団体に積極的に活用してもらい体制を整える。
- ◇荒神山公園へのアクセスも含めた利用促進を図る。
※荒神山公園外の道路整備に関する事項のため、町全体の道路計画で対応

■自然と共生し、環境に配慮した公園

- ◇貴重な生態系の状況を把握し、保護や育成方法を検討する。
- ◇自然資源を体験や学習活動に活用する。